



奈良県版

No. 378

2024年7月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
奈良県本部

〒630-8213 奈良県
奈良市登大路町5-5
奈良県教育会館内
☎ 0742-27-8640
振替 0990-2-209460

われわれの 運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
 - 二、国は、治安維持法が人道に反する悪法であつたことを認めること
 - 三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

治安維持法 国賠同盟

第41回全国大会開催される

奈良県本部会長 加藤宣之

治安維持法国賠同盟は6月19日、20日の両日、東京都内で第41回全国大会を開催され、全国から123名の代議員、評議員が、奈良県から加藤宣之会長と伊藤恵美子事務局長の2名が代議員として選出され、大会に参加しました。

開会冒頭、あいさつに立った中央本部の吉田万三会長は「自民党の裏金問題で岸田内閣の支持率の低迷する中でも大軍拡は着々と進行し、経済秘密保護

法で武器輸出を解禁し、国民監視を拡大していることを指摘し、今大会が来年は治安維持法が公布されて100年の節目を前にした大会であり、大きな節目にさしかかった時期に開催される大会として、『ふたたび戦争と暗黒政治を許さない』という同盟活動の成果を確信に、2万人同盟建設に新たな一歩を踏み出そうと呼びかけました。

また中央本部田中幹夫事務局長から第41回全国大会への決議案の報告と提案を行なわれ、国会請願と請願

署名活動の取り組みや大会をめざす「会員拡大の特別期間」の取り組み、支部活動や女性部、青年部を確立する活動等の報告と提案がなされました。

次に大会は一橋大学の渡辺治名誉教授が「治安維持法公布100年と日本国憲法」と題する記念講演を行い、治安維持法改悪の教訓は日本憲法にどう生かされているかを説明、憲法を武器に「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」「たたかいの必要性を訴えました」。

二日目の討論では埼玉県の会員拡大目標の達成の教訓、北海道からは会員拡大の特別期間の取

り組みと支部づくり活動の教訓、大阪の大石会長から万博開催問題など次々と発言がなされ、奈良県から伊藤恵美子代議員が「長谷川テル訪問記念の碑」の取り組みと国賠中央本部の岩下美佐子副会長を招いての旧同盟女性部の再出発をはかる「奈良国賠ミモザ」結成について発言しました。

大会は「戦争する国づくりに反対し、市民と立憲野党の共闘による政権樹立」と「東京都知事選で蓮舫候補の勝利をめざす」の特別決議を採択し、最後に奈良県から加藤宣之常任理事ら59名、伊藤恵美子理事ら64名の役員を選出し、大会を終えました。



大会に参加する加藤会長

第41回 全国大会に参加して

県本部事務局長 伊藤恵美子

初めての全国大会の参加で、胸躍らせながら参加しました。全国から集まった123人の参加者で会場はぎっしり、熱気があふれていました。



渡辺治・一橋大学名誉教授

挨拶に立った吉田万三会長は、

「岸田内閣は支持率が低迷する中でも、大軍拡は着々と進行している」として、政権が武器輸出を解禁したり「経済秘密保護法」で国民監視を拡大していると指摘しました。

そして「大きな時代の節目にさしかかった時期に開かれる大会である」と本大会を位置づけました。

休憩時間、人があふれる通路の脇に座っている人がいて、よく見たら渡辺治先生でびっくり。

記念講演は、「治安維持法施行100年と日本国憲法」と題し、渡辺治一橋大学名誉教授が熱く語られました。



2日間を通し、44人の発言があり、その内12人の女性が発言したとの事。私も「長谷川テル訪問記念碑」と「なら国賠ミモザの再スタートについて発言しました。発言時間が当初の7分が6分に減り少し残念でしたが、奈良県本部のみなさんのがんばりが、全国大会の場で発言でき、よかったです。

署名数も会員数も前年よりは増加した現勢ではありますが、他県の勢いのある発言を聞き圧倒される思いと、奈良もいまの状態に甘んじることなく一丸となって全力を尽くして次回の大会にのぞみたいと決意しました。

『劇「わが妹テル」関係の皆様との懇談・交流会』に参加して

県本部常任理事 越山のぶ子

2024年6月9日滋賀県長浜市小野節子様宅にて行われた『劇「わが妹テル」関係の皆様との懇談・交流会』に奈良からは「長谷川テル顕彰の会推進委員」のメンバー9名が参加し、故小野忠人先生の妻小野節子さんをはじめ長浜の関係者10名と交流しました。

「我が妹テル」とは「抗日戦争さなかの中国から、文書やラジオ放送で反戦を呼び掛け続けたエス・ペランチスト、長谷川テルのこと。そのテルが中国に渡る直前の一日を滋賀県長浜北高校演劇部顧問小野忠人教諭(59)が戯曲に仕上げた」(1994年10月20日付け朝日新聞滋賀版より抜粋)ものです。その戯曲を同高校演劇部(山岡千夏部長、16人)が草津文化芸術会館で19

94年10月19日「第28回滋賀県高校演劇研修合同発表会」で26校のうちの1校として『わが妹テル』を上演しました。「奈良長谷川テル顕彰の会」では



参加者の皆さん

その戯曲を拝見したいとかねがね思っていましたところ、いろいろな経過を経て、宮城恭子・奈良長谷川テル顕彰の会会長小野節子様より手渡されました。コロナ禍等で話はそれ以上になかすすみませんでした。が、やっと長浜の関係者の皆様との懇談・交流会の運びとなったのです。

当日は心温まる手作りのご馳走をいただきながら参加者全員が自己紹介をしました。そのなかで私はつぎのようなことをかたりました。「テルさんとの結びつきのきっかけは私の両親でした。テルさんが治安維持法違反の罪で逮捕された翌年に同罪で京都大学での滝川事件とのかかわりで数か月拘留所にいれられました。逮捕された父は拷問や栄養不良、不衛生な環境等で体を壊した状態で不起訴で釈放されました。義兄の経営する病院で療養し居候？していました。母は逮捕されたその日のうちに釈放されましたが、官憲に検束

されたことで職場のみんなに迷惑が掛かってもの氣遣いから看護婦として働いていた病院を退職しました。職場の皆さんに送別会をしていただきました。その職場の上司より偶然父の義兄の病院を紹介され転職しました。そこで父にはじめてであいました。父より職場の仲間とともにエスプレントをならった「ことなどを懇談会の席で話しました。すると、私の隣の席のご婦人が「いいお話でしたね」とおっしゃって下さいました。

懇談会の席でお聞きした話の中で特に1994年当時長浜北高校演劇部に所属しテルさんの舞台に出演していた女性がなんと二人出席されていました。聞くところによると台本は何度も書き換えられ、覚えるのに苦労したと当時のエピソードを語っていただけました。結果的に3回舞台に立たれましたが、1回ごとに脚本の理解は深まっていったことなどを話していただきました。

また、当時親子劇場の活動をしておられたかたで地元長浜での再演を提案されたお一人がおられました。その舞台を鑑賞した方々の反応がとてもよかったとのことでした。小野先生の優れた戯曲をこのまま眠らせるのはとてもおしいとおもわれたのでしょうか。よく頑張った生徒たちの姿をもっと多くの方にみていただきたいとも思われたのだと私はおもいました。懇談の後亡き小野先生の書斎、書架を節子様の案内で拝見させていただきました。その後記念撮影をし、皆様とお別れしました。次回は奈良で会いましょうの言葉を残して、帰路につきました。戦争を憎み、平和を願う短い一生を送られたテルさんが奈良と長浜の方々をつなげてくれたのだと思いました。こういった「懇談・交流」は過去の戦争の再来を感じる今それに抗い戦う私たちみんなのエネルギーになるのだと私は思いました。有意義な一日でした。

第36回国賠同盟奈良県本部総会

8月25日(日) 13:30~16:30

奈良市生涯学習センター(奈良市杉ヶ町)

13:30 総会 14:45 休憩

15:00 記念講演

—許さない！戦争する国づくり—(仮題)

奈良県平和委員会理事長
河戸憲次郎氏

記念講演のみ
参加も可能です

《待望の新テキスト！ こぞって学習運動を》

治安維持法とは何か

——戦争をする国にしないために——

私たちは、

- ① 治安維持法とはどのようなものだったのか
- ② 戦争国家とこの弾圧体制が不可分のものであったことは、現在の「新しい戦前」と言われる大軍拡による戦争国家づくりと極めて類似している。
- ③ この治安維持法体制を推進した、特高警察幹部をはじめ思想検事や軍閥関係者たちが、何の反省もなく、素知らぬ顔で復活し、現在の自民党政治を動かしている。
- ④ デジタル化され、リニューアルされた治安維持法体制は決して昔話ではなく、日本が明るく自由な社会へと進んでいく為には避けて通れない問題である等々について、学習を深めていってほしいと願っている。

治安維持法とは何か

——戦争をする国にしないために——

学習テキスト



頒価 500円

発行：治安維持法国賠同盟中央本部

申込先 事務局 伊藤 ケイタイ 090-8552-6800
FAX 0742-31-2394

季節の 言の葉

「沖縄県民斬ク戦ヘリ」
「リ」は完了にあらず
県民はいまも戦う

在沖縄米軍人による相次ぐ
性暴力事件が明るみになった。

またもや繰り返されてしまった。

沖縄の人たちの心、

しかも六ヶ月も隠蔽された卑劣。

深い深い悲しみと怒りに

身がふるえる。

許せない。

治安維持法 100 年を奈良県本部としてどう迎えるか

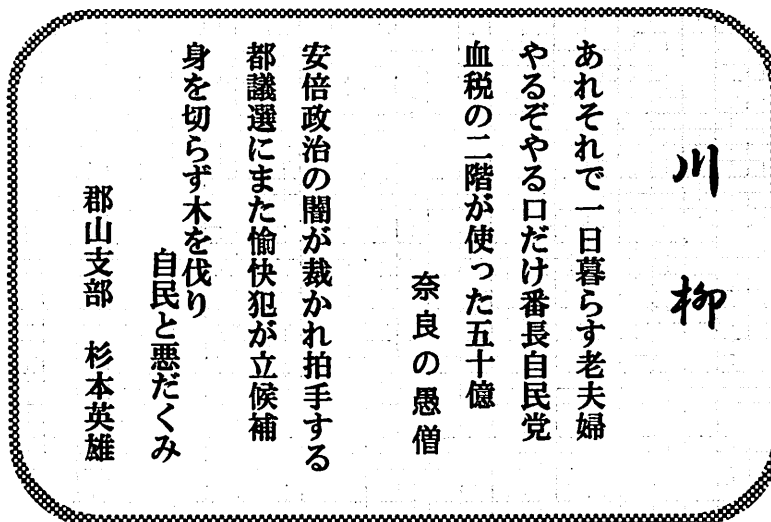
1925 年 4 月治安維持法公布(12 月施行)来年 2025 年は 100 年にあたります。

治安維持法は、廃止まで 20 年間の法律ですが、平和、自由、平等を願う人々を徹底的に弾圧した稀代の悪法であり、不屈に坑がった歴史を、多くの方に、特に若い方に伝えていかななくてはならないと思います。

それには、この 100 年を記念することを絶好のチャンスととらえ、実行委員会形式で大きな行事に取り組みたいと考えておりました。そんな折、県本部を浅川肇氏、大槻烈氏、川瀬俊治氏の三氏が来訪され「ぜひ 100 年記念をご一緒に」という心強い申し入れがありました。

他団体のみなさんにも声をかけ、治安維持法 100 年を記念するにふさわしい催しにできるよう力を合わせていきたいと思います。

まだ、具体的な構想はできていませんが、みなさんのご意見などぜひお寄せ下さい。1 年がかりでじっくりと取り組んでまいります。



2024年会員現勢・署名数 [6月30日現在]

① 会員現勢 380名 [前月比 +3-3]

② 国賠署名

団体署名 1 [+1]

個人署名 10 [+10]

編集後記

寝苦しい夜と、激しい雨と、熱中症が続出する炎天日が交互に続く中、みなさんいかがお過ごしでしょうか。お身体くれぐれもお気をつけて下さい。

さてジリジリ照りつける夏の陽よりもなお熱く、今、沖縄は怒りに燃えていることでしょう。在沖縄米兵の未成年者も含む性的暴行事件が相次いで発覚しました。二度と起こしてはならない事件が、基地があるが故に、またもり返されてしまった。女性の人権や尊厳はないがしろにされています。しかし政府は、16ヶ月も隠蔽をしたという卑劣さは許しがたいものです。

周辺住民の安全を軽視し、とりわけ守るべき子どもたちを守れなかった政府や米軍等の責任は重大です。

「体が動かないくらい苦しかった。悔しい」沖縄の女性の言葉です。

平和に安心して暮らしたいという沖縄の心に私たちも共に歩みを強めていきましょう。

E・I